

① (表紙)
自明治廿八年八月
至同十二月

着電綴(十五)
大本営副官部

②
十月三十日午前七時四十分石黒軍医総監
ノ達シタル電報左ノ通り

(第四)

殿下昨日来、熱三十八度一分ヨリ三十八度七分ノ間ヲ昇降セリ。脈候ヤヤ宜シク脈百十四ヨリ百十、全肺気管支ニヤヤ血積アリテ、喚嗽少ク咯痰少量、呼吸ノ数ハ三十二、脳症アリテ時々譫語アリ。体力減スレトモ、一昨日ニ比スレバ稍良候ナリ

十月二十五日午後九時五十分台南

石坂軍医総監
谷口軍医 監

(第五)

殿下御病况、大概昨日ニ同シ。熱三十八度一分以下、脈搏百二十脳症稍ヤ減ス。

西郷来リ專任セシム。

十月二十六日午後十二時台南 石坂軍

医総監

(第六)

殿下今朝来、衰弱大ニ増シ、熱三十八度七分、脈百二十、呼吸三十、肺部ノ水泡音全肺ニ広ガリ、咯痰ハ少ナシ。食欲乏シク、漸ク滋養物ヲ強テ進メ奉ル。三日来便秘。尿ハ異ルナシ。昼夜ヲ弁セス心

配ス。

十月二十七日午後六時卅分台南 石坂
軍医総監

海底電線不通ノ為ニ台北ニ電信輻
轉ス。故ニ、昨夜接手ノ分ト今朝ノ分ト
前後シタルモノ、如シ

石黒忠惠記

③

電報 十月廿八日前十時四十五分
台北発 同廿九日午後七時十五分發

左之通、台南樺山總督ヨリ電報アリ
近衛師団長殿下。右參謀總長殿下へ至急
電報ス可キ旨申来レリ

角田海軍少将

④

電報 十月二十八日前九時三十分
台北発 十月二十九日午後六時十分接

左之通在台南高島副總督ヨリ電報アリ
近衛師団殿下今曉来病氣頓ニ進ミ、今ハ
危篤ナリ。右報告ス。

此旨直クニ參謀總長殿下へ電報スヘキ旨
申来レリ

角田海軍少将

⑤

着電 十月廿八日午前十時五十五分台
北発 同廿九日午後六時十五分着

近衛師団長殿下今朝薨去被為在タルモ、
危篤ノ旨ヲ以テ、至急御帰朝被出在筈ナ

リ

廿八日午前八時二十分於台南
大島少将

陸軍參謀川上中将

⑥

電報訳文

左ノ通り台南樺山總督ヨリ電報アリ
近衛師団長殿下、遂ニ廿八日午前七時十
六分薨去アラセラレシタリ。誠ニ悲端ニ
堪ヘズ。付テハ御病氣ノ名義ニテ軍艦ニ
成ラセラレ、本日横浜ニ向ヒ、安平御出
帆(不明々々)ナリ。御出帆ノ時刻及軍
艦ノ名ハ追テ報知ス。此旨、參謀總長殿
宛へ至急電報スベシト申シ来レリ。

十月午後四時廿分

台北 角田

參謀總長

⑦

電報訳文

左ノ通、台南樺山總督ヨリ電報アリ
近衛師団長殿下ハ西京丸ニ御乗組旗艦吉
野護衛、二十九日午前十時安平出發、横
須賀ニ向ヒ直航。来ル四日御着ノ筈。
右ノ趣、參謀總長殿下へ電報スベキ旨申
シ来レリ。

十月廿八日午後五時發電

台北

角田海軍少将

大本営

參謀總長殿下